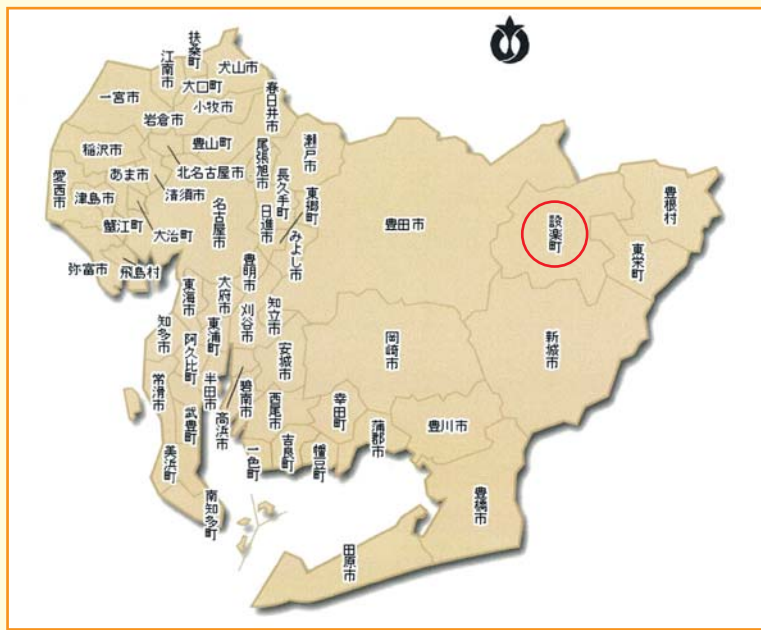


特集 住み良い町・心地よいわが町


紹介シリーズ その3 設楽町

刈谷市から心地よい町として紹介された設楽町は、設楽ダム建設予定地・林業木材の町で知られる山の町であり、水源の町である。

愛地建コンビジョン委員会の仲間と、取材挨拶に訪れたときのことである。渓流沿いの道を進み、設楽町に入ると思わず車窓を開けて深呼吸した、空気が甘いのだ、車を止めて皆で散策をした。「ピヨピー」と小鳥の鳴き声・「ピチャピチャ」と溪流の音!「サワサワ」と木立を吹き抜け甘い香りを運ぶマイナスイオンの涼風。目に染み入る木々の色。我々は喧騒な都会から逃避してきたような、安らぎを覚えた、此処は自然率100%の【心地よい里】なのである。




町章




設楽町の頭文字「S」をモチーフとして、高原や山々、湖など地域の豊かな自然を表すとともに、歴史や文化を守りつつ未来を見つめ、協調発展する姿を表現しています。円はその活力集中力をも表しています。

町の木



【ブナの木】
県下随一の規模を誇る段戸裏谷や面ノ木の原生林に自生するわが町ならではの樹木で、現在の環境保護のシンボルとも言えます。

町の花



【シャクナゲ】
ホンシャクナゲとホンバシャクナゲの2種が分布する地域はとても珍しく、可憐で美しい薄ピンク色の花が特徴です。

設楽町民憲章

わたしたちは、美しい森と清流に育まれたこの設楽町で、歴史や伝統を尊重し、交流を深め、住みよいまちを築くため、ここに町民憲章を定めます。

- 豊かな自然を愛し、くらしと調和するまちをつくります。
- 仕事に誇りと喜びをもち、活力あるまちをつくります。
- 心と体をきたえ、健やかで人に優しいまちをつくります。
- 知識と教養を深め、文化を育むまちをつくります。
- みんなで力を出し合い、自立するまちをつくります。

(平成19年1月1日設定)



名物豊川のおしどり



名物川向のしだれ桃



心地良い設楽の溪流

町名の由来：郡名「設楽郡」を継承して設楽町とした。設楽は水が滴る(したたる)地域を意味し、矢作川・豊川・天龍川など3水系の源となる山里なのである。

町の歴史：昭和31年北設楽郡の田口町・段嶺(だんれい)村・名倉村と振草村神田(かた)・平山・川合が合併して誕生。平成17年に津具村と合併し現在に至る。寒狭(かんさ)(豊川に改名)川・名倉川(矢作川支流)上流域の山岳地帯に位置する。林産資源の豊富な農山村で、かつては設楽郡の行政・経済の中心地であった。町の中央部を南北に通る街道は、昭和37年国道257号となり拡張整備された。同61年清嶺バイパス(清嶺トンネル)開通。岩古谷山は昭和44年天竜奥三河国定公園の一部となり、同46年東海自然歩道が開通。

名古屋市中心部から約90キロメートル、豊橋市及び豊田市の中心部から約55から60キロメートルの距離にあり、東は東栄町、豊根村、西は豊田市、南は新城市、北は長野県根羽村と隣接しており、道路整備をすることで、通勤可能な都市近郊の中山間地住居を目差し、住み心地の良い町づくりを目差している。(参考 『角川地名大辞典』)

【設楽町の概要(森と水のちからと人の営みが 調和するくらしと出会いのまち)】

総面積27,396ha	山林 24,378ha	農地 963ha	宅地 180ha	水面 289ha	道路 719ha	ほか 867ha
総人口 5,948人※1	世帯数 2,386※2	0~9歳 370人※2	10~19歳 521人※2	20~64歳 2,590人※2	65~74歳 1,127人※2	75歳以上 1,048人※2
産業別人口	農業	林業	漁業	二次産業	三次産業	(計)
S40年	3,610人	321人	6人	853人	1,859人	6,649人
H17年	690人	21人	5人	787人	1,697人	3,194人
小学校 児童数	田口 73人	清嶺 24人	田峯 12人	名倉 54人	津具 49人	児童数・生徒数は、平成23年5月時点の人数
中学校 生徒数	設楽 109人	津具 31人				
保育園	名倉 24人	清嶺 15人	津具 22人	宝 35人		
保健福祉センター	したら	つぐ	つく診療所			
教育文化施設	奥三河郷土館・町民図書館		津具文化資料展示センター・グリーンプラザ			
各種スポーツ施設	弓道場：田口・田峯		田口テニス	スポーツ広場：名倉・津具		
	名倉体育館	洲山運動広場		名倉水泳プール		
設楽町の自然	名物二十山	①岩伏山983m ②井山1195m ③桃太郎山1358m ④白鳥山968m ⑤古町高山1055m ⑥暮盤山1189m ⑦大鈴山1011m ⑧鹿島山912m ⑨平山明神山970m ⑩岩古谷山799m ⑪宇連山929m ⑫鞍掛山883m ⑬龍頭山752m ⑭出来山1052m ⑮段戸山1162m ⑯岩岳1050m ⑰寒狭山945m ⑱仏庫裡1071m ⑲大野山805m ⑳笹頭山760m				
	豊川支流河川	タコウズ川・境川・戸神川・澄川・榎尾谷・野々瀬川・呼間川・井天谷・栗島川・当貝津川・田峯川・宇連川・大入川				
矢作・天竜 水系	黒田川・名倉川・神田川・宇連川					
設楽町と道路	国道420号線 足助―阿蔵―新段戸トンネル―豊那―田峯にて国道257号線に合流。 国道257号線 新城―豊川沿いに設楽町―東納庫―西納庫―稲武―上矢作―恵那市。 国道473号線 大田口―和市―神田―東栄町月―中設楽にて国道151号線に合流。 県道10号線 設楽―津具―茶臼山高原道路―豊根村へ 県道33号線(東海自然歩道)田口―松戸―大名倉―寒狭山山麓―大多賀―足助町足助。					

(※1)総人口は平成23年5月1日時点 (※2)世帯数および年齢別人口は平成20年統計資料による。

◎愛知県下の森林比率 第1位の町である。

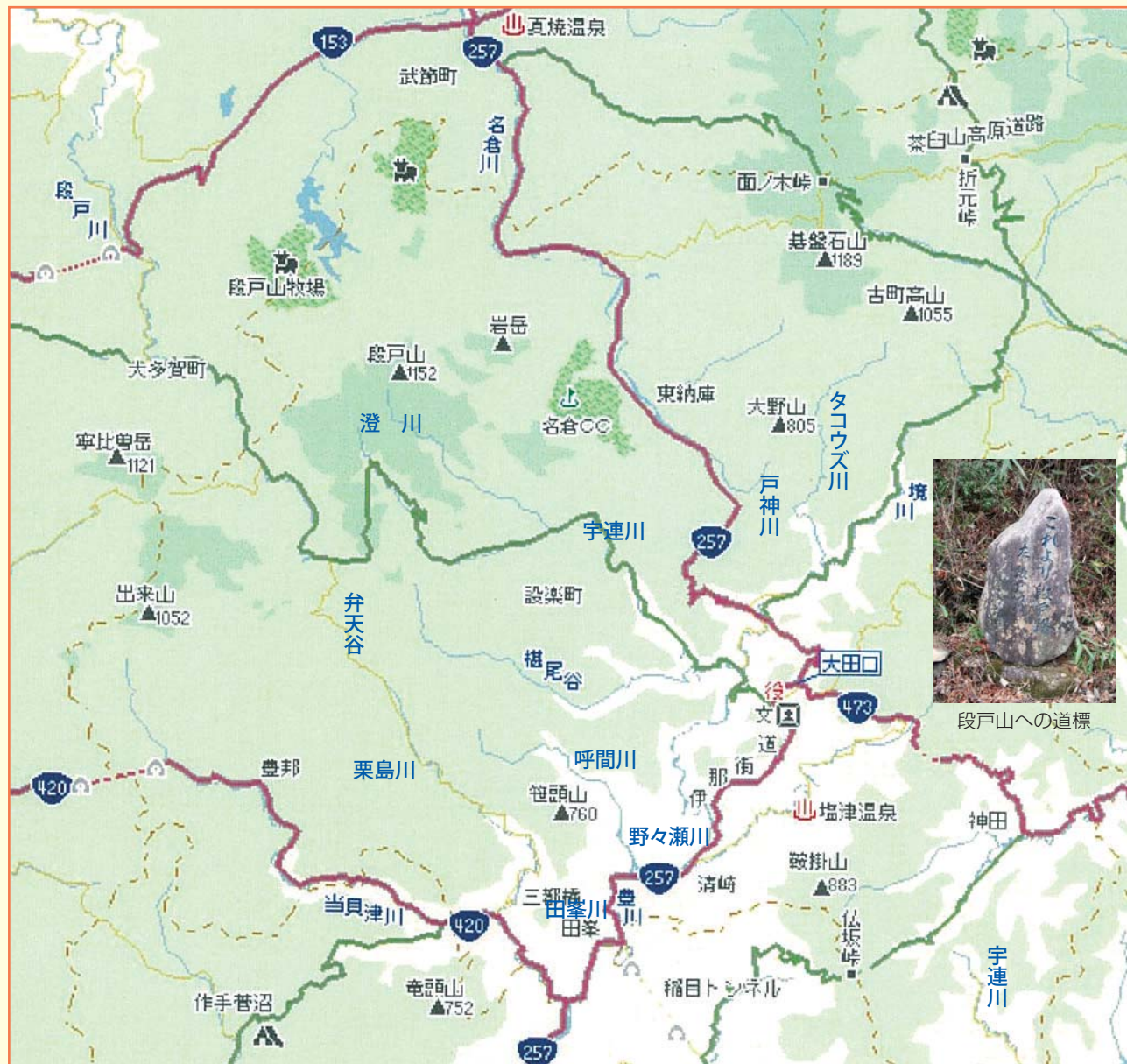
愛知県面積：516,137 ha、県森林面積：219,848 ha、
 県森林比率 = 森林面積 / 土地面積 × 100 = 219,848 ha / 516,137 ha × 100 = 40 %
 第1位設楽町：24,378 ha / 27,396 ha = 89.0 %
 第2位新城市：41,661 ha / 49,900 ha = 83.5 %
 第3位豊田市：62,926 ha / 95,058 ha = 66.2 % である。

(参考 『県農林水産部森林保存課のデータ』)

「設楽の森林資源に着目」3月11日東日本大地震が発生した!

戦後復興期に活躍した設楽郡域の森林資源は、森林再生貯蓄期間を経て、再度必要とされる時が来た。東日本大地震の復興には設楽町の木材が必要なのだ! まさしく森林資源は、災害から復興するになくてはならない資材なのである。

東日本大震災復興のために貯えられてきた設楽町の森林資源を融通しようではないか。



設楽町の豊かな森林



設楽町田口の町並



寒狭山麓を下る豊川

田峯小学校を廃校から救った田峯集落の絆!!

(住み心地よい空間のモデル・全国の限界集落は見習え)

民俗芸能「田峯田楽」で知られる田峯小学校は廃校の危機にたったことがある。小学校の存続は地域社会が存続するための条件なのである。人口増・若い夫婦の定住・児童獲得・宅地造成・田峯出身者への勧誘など、地域中総動員の運動であった。力になったのが約500年の伝統を持つ民俗芸能「田峯田楽」であった、田峯田楽で培った仲間意識・田峯の絆が廃校から守ったと聞く。それから10年以上経過するがいまだに小学校が存続している、入校児童が絶えない社会が出来たのである。すなわち日本の伝統である三世大家族社会の構成・地域中の大人が子どもの面倒を見る・民俗芸能「田峯田楽」の仲間意識・地域中が住み心地のよい空間・間合いの大切を心得ているのだ。

地域力の源「田峯田楽」の概要：452年前の永禄2年(1559)、時の田峯城主が、隣村大輪村道具貝津の薬師堂において行われていたものを、田峯観音が田峯城の守護神である事から、祭礼に取り入れた事が始まりと伝えられている。



地域の誇り 田峯小学校



田峯子供かぶき

■ 見どころ

夜田楽の田遊びにおいて行われる演技が、往古を偲ぶ良い資料と思われる。また朝田楽の庭の事は、焚木に向かって飛び跳ね、焚木をけちらす様が勇壮であり見所とされている。

■ 開催日時：例年2月11日

■ イベント概要

昼田楽(伽藍祭)、夜田楽(田遊び)、朝田楽(庭の事)の3部制になっており、昼田楽を神楽系統、夜田楽を模擬的に行うことを言い、朝田楽は庭に4ヶ所焚木を焚き、その中で能形式と言われる田楽舞を行う。

【災害】

(1)大規模洪水被害想定図：愛知県下で、浸水ハザードマップ(大規模洪水被害想定図)が作成されている市町村は、新川流域15市町・新川流域以外31市町村に及ぶが、山間地の設楽町は洪水浸水被害が想定されない、安心安全な町なのである。

(2)自然災害：道路整備・河川改修・治山治水が行われたおかげで、ハザードマップが想定されない安全・安心な設楽町になったが、明治・大正・昭和初期の時代には多くの災害があった。(出典 『設楽町誌』通史編P718~733：H17.09.30発行)

1)愛知県を襲った大規模災害と設楽町の様子

災害名	発生年	設楽町の様子
濃尾地震	明治24年10月	山から落石があったという。
関東大震災	大正12年 9月	授業中突然「ドーン」と音と教室が大きく揺れた。
室戸台風	昭和 9年 9月	町内の学校はじめ各地に被害を出したといわれるが、記録するほどの災害はなかった。
東南海地震	昭和19年12月	清崎小学校庭の樹木の根元に割れ目が入った。
室戸台風	昭和20年 1月	豊橋方面の被害が大きかったが、町内には特段の被害はなかった。
伊勢湾台風	昭和34年 9月	全壊家屋42戸、半壊家屋237戸、死者0、道路損傷237ヶ所・橋梁流失損傷11ヶ所、農地599ha、風倒折木11万2000石、林地崩壊241ヶ所の被害を受け災害救助法が発動された。豊那地区国道420号線沿いの沢はすべて氾濫し、道路への崩土、河川の決壊など陸の孤島となった。
東海豪雨	平成12年 9月	農作物のみならず田畑や道路の決壊、土砂の流入、河川・小沢の氾濫、土砂崩れなど各地で多大な被害を受けたが、人的被害はなかった。

上記のとおり平野部では大災害であったが、設楽町では被害が少なかった。

2) 設楽町を襲った山岳地帯特有の土石流災害

- ・ 振草村の洪水災害(明治37年7月)：大洪水にて、橋27箇所・決壊45箇所・農作物・赤痢発生する。明治38年9月大洪水、田内橋は原形のまま流失し「西から」の岩盤に当り粉碎。明治45年9月台風で、田内橋・竹桑田橋・市代橋流失。
- ・ 折立の山崩れ(明治37年5月)：折立沢谷の山崩れによって8戸が被害を受け、8人が死亡。
- ・ 当貝津川の大洪水：大正8年9月大豪雨で当貝津川が氾濫。現笠井島集会所付近にあった由緒ある観音堂・原田末松(屋号-みどりや)・および丸山勝平の2戸が流失。昭和40年代までは、当貝津川の氾濫により田への流失、橋の流失など生活に与えた水の被害は甚大かつ深刻であった。
- ・ 団子島の山崩れ(大正10年6月)：折からの暴風雨のため豊那地区の団子島で山崩れが発生、炭小屋の一家5人死亡。
- ・ 行戸の山崩れ(昭和20年7月・昭和32年9月)：20年には2歳の子どもの土砂の下になって死亡。32年の台風10号の大雨で、栗島の梅久後地内で約2町歩余りの山崩れが発生、3,600m³ほどの土砂は約800m下の河合宅および付属建物を栗島川まで押し流し、一家6人が死亡。
- ・ 台風17号洪水災害(昭和33年8月)：清嶺橋流失・清嶺中学校浸水、校舎床下浸水・道路決壊により豊鉄バス不通。豊那地区の生徒は伊勢湾台風の時と同じく裁縫室で合宿。吊橋の清嶺橋の欄干が流失。
- ・ 桑平の山崩れ(昭和43年8月)：台風10号襲来、下桑平地内の林道工事労務宿舍の裏山が崩れ土砂が直撃した。6人が死亡、軽傷7人。
- ・ 笠井島の山崩れ(昭和44年8月)：台風7号襲来時間雨量101mmの集中豪雨により死者1人、家屋半壊10戸、町内全域で2億2千万円もの大被害をもたらした。笠井島神谷沢地内の山津波は、全壊2戸・半壊2戸、であったが人的被害はなかった。
- ・ 台風12号災害(平成7年9月)：国道420号線が林道落目豊那線入り口付近で陥没。

3) 戦争被災・その他の人的被害

- ・ 焼夷弾投下:昭和20年7月20日午後10時ころ桑平地内にB29爆撃機が焼夷弾を投下し、木村宅が爆弾の直撃を受けて全焼した。翌日2人の子どもが不発弾の真管を叩き一人が爆死するという痛ましい二次災害も引き起こした。太平洋戦争において米軍に爆弾を投下された郡内唯一の被災地である。
- ・ 熊による被害：明治40年10月4日、段戸帝室林野局三都橋分担区技手補が、段戸山中を巡回中に熊と遭遇し、格闘のうえ共に死亡した。野平墓地に埋葬された。
- ・ 水死:八橋地区では、昭和3年8月の集中豪雨で子どもが1名・昭和14年7月水泳訓練中に小学3年生の児童が、昭和29年8月小学2年生の児童と妹が川に流され水死した。

4) 設楽町の8火災(死者0人)

- ①東納倉学校の火災：明治17年10月。東納倉学校焼失。
- ②八橋小学の火災：明治33年6月。八橋小学焼失。
- ③横手の大火(田口町の大火)：明治42年12月。役場・銀行・郵便局をはじめ22戸が焼失。
- ④鳳来寺の大火：大正13年3月。鳳来寺内の大津谷から出火し6日間延焼、焼失面積3,000町歩にも及ぶ未曾有の大火となった。
- ⑤田峯小学校の火災：大正15年3月。田峯小学校焼失、隣家1棟も焼失した。
- ⑥田口小学校の火災：昭和6年1月。教室3・理科室・設備など焼失。
- ⑦清崎箱上の火災：昭和12年3月。清崎箱上で火災発生5戸が焼失した。
- ⑧タキゼ製材所の火災：昭和40年。タキゼ製材所から出火し、製材所は全焼した。

5) 設楽町の平成22年度交通死亡事故：

22年度1件、国道257号線設楽町川向地内にて大型貨物自動車か崖下へ転落。運転手死亡。

6) 設楽町内の平成23年5月時点の犯罪は窃盗事件など3件のみ、愛知県下で最も犯罪の少ない町である。

(『愛知県警察統計資料参考』)

7) 設楽町管内・平成20年度・原因別 救急車出動回数・人口比出動回数

(出典『新城市消防本部統計資料ホームページ』)

理由	火災	急病	自損行為	水難	交通	運動競技	一般負傷	労働災害
出動回数	1	166	3	0	36	1	36	2
人口比	0.017%	2.77%	0.05%	0%	0.6%	0.017%	0.6%	0.003%

(※1)交通事故も少なく救急車の出動回数も少ない、安心・安全な町である。

【まちづくりの基本理念】

(出典 『設楽町総合計画2007～2016』)

基本理念 1：環境と暮らしを重視した人に優しいまちづくり

豊かな自然を活かした、環境と共生するまちづくり、人とその暮らしを重視するまちづくりを進めます。

基本理念 2：活発な産業活動と交流により情報を発信するまちづくり

地域特性や資源を活かした産業の振興を図り、情報を発信するまちづくりを進めます。

基本理念 3：子どもから高齢者まで元気な健康・福祉のまちづくり

子どもからお年寄りまで、各世代における保健・福祉活動に力を注ぐとともに、住んで良かった、ここに住みたいと感じるまちづくり、住民の一人ひとりを大切にすまちづくりを進めます。

基本理念 4：自己実現を図る生涯学習・文化のまちづくり

生涯学習・文化活動を充実し、特色ある地域文化を守り育て、個性あるまちづくりを進めます。

基本理念 5：住民参加と協働をもとに自立するまちづくり

あらゆる場面における住民の参画により、住民と行政とが一致協力して行政施策を推進するまちづくりのもと、自立する自治体を目指します。

愛知地域建設コンサルタンツ協会ビジョン委員会は、東日本大震災を教訓に以下の提言をする。

1. 自分の命は自分で守れ!
2. あらゆる施設は設計上安全であっても、破壊された場合を想定し、三とおりの備えと対策をたてよ。
3. 東南海地震はかならず起きると思え、そのための備えをせよ!

(※1)詳細は、「緊急レポート」に記述して、配布します。

今回の記載内容

心地よいわが町紹介シリーズその4は、設楽町と豊川流域運命共同体である渥美半島の町「田原市」を紹介します。先端の伊良湖岬は、島崎藤村の「椰子の実」をはじめ万葉の時代から多くの歌人に歌われています。とても心地よい町なのでしょう。また渥美半島は想定される「東南海地震の防災対策」で注目されています。

執筆(ビジョン委員会顧問)
磯貝 洋尚